

House in Shimanto
四万十の家

～空に浮かべられた舟のような建築～

敷地は四万十川沿いにあり、美しい川の風景を望める場所にある。四万十川でのアクティビティ・暮らしに憧れ、都会から移住してきたクライアントのために計画された。

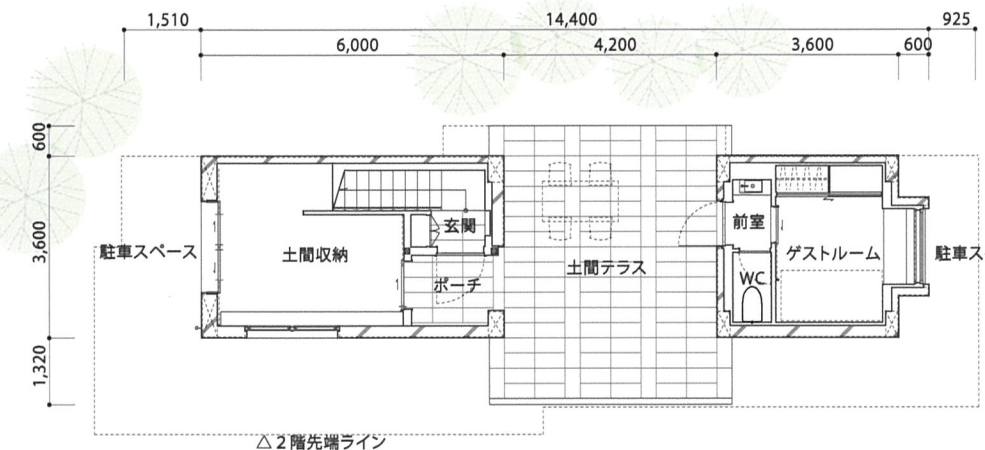
- 1) 四万十川を望むことのできる眺望の良い2階レベルに住宅のほとんどの機能を持ち上げる。
- 2) 1階はコンクリート造とし、北側の崖に対して安全な構造とする。
- 3) 2階はシンプルな木造の架構で構造をあらわにし、木に包まれて住まう空間をつくる。
- 4) 瓦屋根が最も美しく見える単純な切り妻屋の細長い形状とし、厳しい自然から身を守るための厳然とした建築姿とする。
- 5) 外壁は焼き杉板張りで古い納屋のような外観で1階のコンクリートとの対比が美しくなるようにする。

6) 1階には使い勝手の良い土間収納を設け、バーベキュー等できる土間テラスをつくる。

7) 内部には廻れる家事動線をつくり、ゆとりある幅で窮屈さのない動線とする。

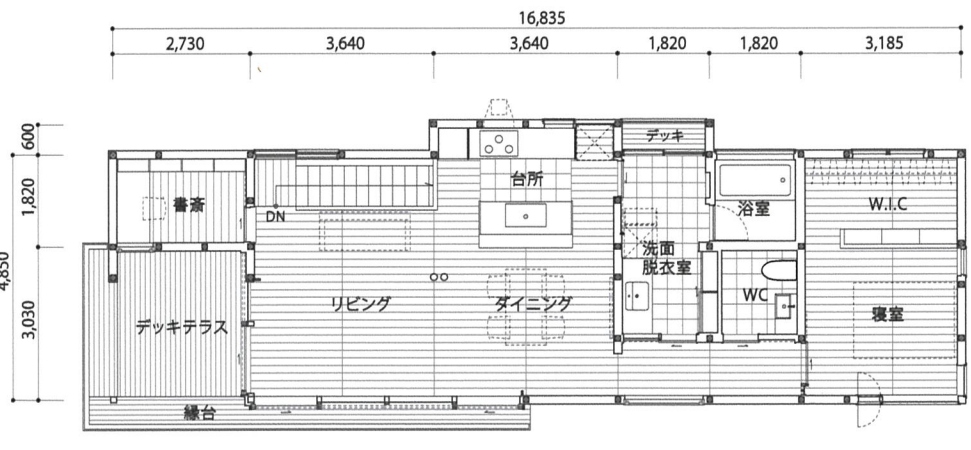
住宅が建つ敷地の北側は高さ6mの崖となっており、崖条例をクリアするため1階部分をRC造とし、2階を木造とする混構造となっている。ゆとりある一人暮らしが完結できる平屋の間取りをRCのキャンティレバーの上に載せる構成とした。リビング南の窓は美しいパノラマを享受できるよう間口を大きく取った連窓とし、リビングの西側にはインナーバルコニーを設けた。これにより西日のリビングへの影響を和らげる効果をもたらしている。

屋根はいぶし瓦とし、外壁は1階のコンクリートの壁との調和を考え黒い焼杉板張り。高知県産材の杉・桧を用いて天井は垂木構造のあらわしとした。壁は調湿機能のある塗り壁とし、開口部もその多くは桧で製作するなど、できる限り自然素材を採用している。家で過ごす時間、眺める風景、それらがクライアントの記憶にずっと残るような居心地の良い建築であるようお願い考えたこの家は、空に浮かべられた舟のような姿となった。

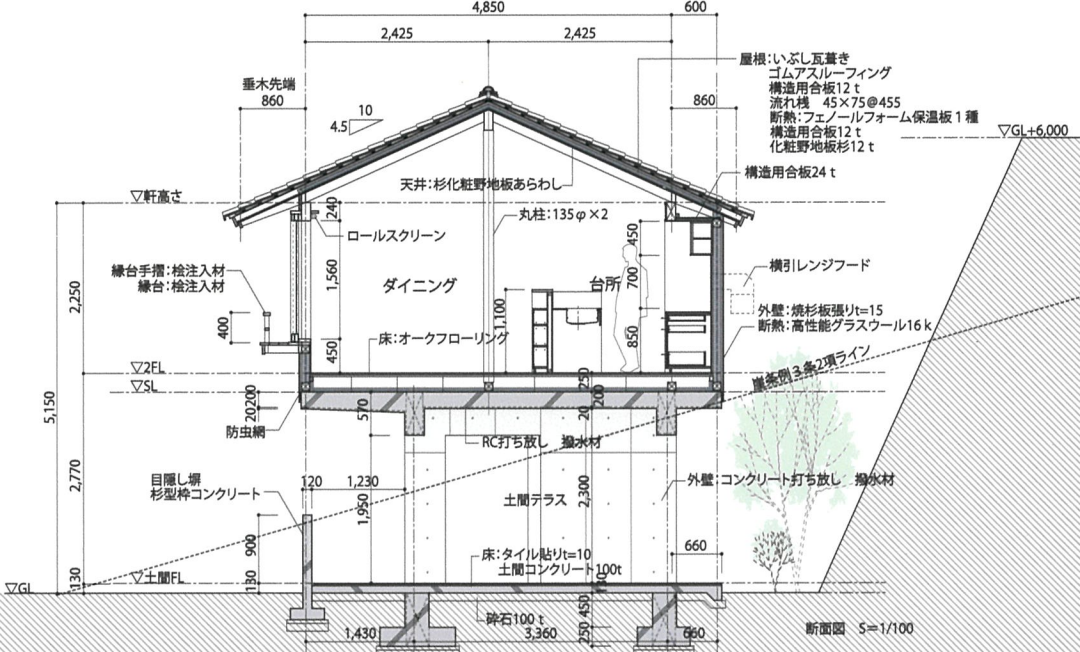


1階平面図 S=1/150

敷地面積 / 655.30㎡
建築面積 / 87.46㎡
法定延床面積 / 116.63㎡ (1階31.70㎡・2階84.92㎡)



2階平面図 S=1/150



断面図 S=1/100

